

JAPAN-AFRICA  
Public-Private Economic Forum

## アフリカ官民経済フォーラム・サイドイベント

# 「グリーンビジネスと気候投資」

## ビジネスソリューションとSDGsインパクト投資の事例から読み解く

日時：2021年12月16日(木)16:30-19:10予定(日本時間)

場所：オンライン(ZOOM)

共催者：独立行政法人国際協力機構(JICA)、国連開発計画(UNDP)、  
国際連合工業開発機関(UNIDO)東京投資・技術移転促進事務所

言語：日本語・英語・フランス語(同時通訳)

費用：無料

事前登録：以下サイトか左のQRコードより事前登録が必要です。

[https://bit.ly/gbiz\\_cc](https://bit.ly/gbiz_cc)



1993年に始まったアフリカ開発会議(TICAD)は、オープンで包括的な多国間プラットフォームとしてアフリカにおける持続的で公平な開発の道筋を探る場を提供し、アフリカ、日本、そして世界の官民アクターの連携を推進してきました。TICADは、日本政府、国連アフリカ特別顧問室、国連開発計画、世界銀行、アフリカ連合委員会が共催者となり、四半世紀を超えて、官民多様なセクターからの参画を得て開催されています。

来年2022年には、第8回アフリカ開発会議(TICAD8)がチュニジアで開催される予定であり、アフリカの社会経済にも深刻な爪痕を残した新型コロナウイルス(COVID-19)からの復興と持続的な開発に向けた議論がなされる予定です。新型コロナウイルスからの復興を持続可能なグリーン社会移行への好機と捉え、グリーンリカバリーを成長戦略として位置づける先進諸国の潮流に倣い、アフリカにおいても持続的な成長モデルとしてのグリーン推進について、重点的に協議をする必要があります。

コロナ禍以前よりアフリカは、気候変動や生態系の危機の最前線にあると認識されていました。同大陸は、地球上で最も気候変動の影響を受けやすい地域であり、生物多様性の急速な減少、生態系の劣化、エネルギーギャップの解消の必要性など深刻な課題が続いています。アフリカに対するレジリエンス構築を目的とした緊急的な行動がなければ、気候変動と生態系の劣化が貧困や人口移動の増加を引き起こし、新型コロナウイルスからの回復の大きな障害となると予測されています。

この度、TICAD8を見据え、第2回日本・アフリカ官民経済フォーラムの機会を活用し、JICA、UNDP、UNIDO東京事務所は、アフリカにおけるグリーンビジネスと気候投資に対する先駆的な事業事例を紹介し、ビジネスを通じたグリーン推進と気候変動対策に寄与する投資の拡大を提唱するため、サイドイベントを開催します。

本サイドイベントはまた、世界とアフリカにおける潮流を見据えての開催となります。2020年12月に開催されたアフリカ環境大臣会合では新型コロナウイルスからの復興に向けた経済・社会システムの転換を後押しする、包括的なグリーンリカバリーへの支援に合意がなされました。これを受け、アフリカ連合委員会は、「Green Recovery Action Plan 2021-2027を立ち上げ、気候金融の改善、再生可能エネルギーへの移行、自然に基づいた解決策と生物多様性への注力、回復力のある農業、グリーンでレジリエントな都市」の5つの優先分野を掲げました。さらに、2022年の国連気候変動枠組み条約第27回締約国会議(COP27)はエジプト開催が決定され、途上国における気候変動対策が焦点となる予測です。

ビジネス機会の視点で鑑みると、サハラ以南のアフリカでは、2030年までに発電量の67%を固有のクリーンな再生可能エネルギーで賄うことができ、2050年までにGDPの増加、福祉の向上、最大200万人のグリーン・ジョブの追加による雇用の増加が期待できると分析されています。2021年4月に開催されたEU-アフリカ・グリーン投資フォーラムにおいてアフリカ開発銀行総裁は、新型コロナウイルスからの復興のための投資主要分野として、エネルギー・農業・インフラを取り上げ、太陽光・風力・水力・地熱など資源が豊富なアフリカのエネルギー転換には年間1,000億ドルの投資機会があると述べました。特に農業分野では、気候変動に強い作物に大規模な投資の可能性があります。気候変動に強いインフラは1,300億ドルから1,700億ドルの投資可能性があると説明しました。

本サイドイベントでは、このように国際社会とアフリカ諸国が打ち出した公約と協調的な行動に照らし合わせ、持続的な未来の実現を焦点にグリーン・ソリューションと投資の機会について議論します。安価でクリーンなエネルギーへのアクセス、気候変動に強いインフラの構築、水と食料の安全保障、天然資源の持続可能な利用、持続可能な農業の確保など具体的なビジネス機会や事例を紹介し、更なる投資の機会を議論するとともに、TICAD8を見据え、グリーンビジネスと投資促進に向けた官民連携での取り組みを提唱します。

## プログラム

時間	アジェンダ	登壇者
16:30-16:35	導入	Mr. Henry Bonsu (セッションモデレーター)
16:35-16:40	開会	Dr. Ayodele Odusola / Resident Representative and Director, Africa Finance Sector Hub, UNDP South Africa
16:40-16:45	祝辞	渋澤健氏 / シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役、UNDP SDGインパクト・イニシアチブSteering Group
16:45-16:50	プレゼンテーション	久下勝也氏 / 資源・エネルギーグループ課長、JICA
16:50-17:50	【パネルディスカッション(1)】 グリーンビジネス: 機会とパートナーシップ	Mr. Shaninomi Eribo / Green Squqre Metre, CEO Mr. Hamza El Baroudi / EMOB(Electric Mobility)共同創業者 Ms. Alice Ruhweza / Africa Regional Director, WWF 川口信弘氏 / 専務理事、一般社団法人GOOD ON ROOFS 水本穰戸氏 / 執行役員、CSO 株式会社チャレナジー
17:50-17:55	プレゼンテーション	安永裕幸氏 / UNIDO東京投資・技術移転促進事務所長
17:55-18:55	【パネルディスカッション(2)】 気候投資: 機会とパートナーシップ	Mr. Hubert Danso / Chairman, Africa investor (Ai) Group チヴァース陽子氏 / キャピタルマーケット サステナブル・ファイナンス部長 SMBC日興証券 Dr. Christopher Marks / 欧州グローバルコーポレート営業部 新興国チーム次長、三菱UFG銀行 Mr. Nico Tyabji / Head of Strategic Partnerships, Sun Funder Mr. Thaven Naido / Regional Coordinator, Southern Africa, Private Financing Advisory Network (PFAN)
18:55-19:05	提言	Mr. Kebour Ghenna / Executive Director, Pan African Chamber of Commerce and Industry 岩井睦雄氏 / 経済同友会アフリカPT委員長、 日本たばこ産業取締役副会長
19:05-19:10	閉会	モデレーター

## 登壇者プロフィール

### 開会

#### Dr. Ayodele Odusola

Director, Finance Sector Hub  
Regional Bureau for Africa  
UNDP



Dr. Odusolaは、UNDPアフリカ地域局チーフエコノミスト兼戦略・分析部門の責任者を経て2019年から現職。それ以前は、UNDPナイジェリアのシニアエコノミストとして、地域、国のMDGsレポート作成支援の促進を担当。国連勤務以前は、ナイジェリア大統領府に勤務し経済管理シンクタンクのリサーチ・マクロ経済トレーニングプログラムの責任者を務めた。開発戦略、政策分析の専門家であり、アフリカの経済に関する幅広い知識を持つ。多くのアフリカ諸国の国家開発計画、ビジョン、成長戦略の策定を支援し、「アフリカ開発会議(TICAD)」の開催に技術的なリーダーシップを発揮したほか、UNDPの後発／内陸開発途上国に関するコーポレート・テクニカル・チームの議長も務る。

ナイジェリア出身。ナイジェリア・イバダン大学 経済学博士号。

### 祝辞

#### 渋澤 健

代表取締役  
シブサワ・アンド・カンパニー  
株式会社



1961年逗子市生まれ。父の転勤で渡米。1983年テキサス大学化学工学部卒業。1987年UCLA大学にてMBAを取得。米系投資銀行で外債、国債、為替、株式およびデリバティブのマーケット業務に携わり、1996年に米大手ヘッジファンドに入社。2001年に独立し、シブサワ・アンド・カンパニー株式会社を創業、代表取締役就任。2008年にコモンズ投信株式会社を創業し、会長に就任。経済同友会幹事およびアフリカ開発支援戦略PT副委員長、UNDP(国連開発計画)SDG Impact Steering Group委員、東京大学総長室アドバイザー、等。著書に多数。

### 提言

#### Mr. Kebour Ghenna

Executive Director,  
Pan African Chamber of  
Commerce and Industry



エチオピア出身。Pan African Chamber of Commerce and Industry (PACCI) の現エグゼクティブディレクター兼起業家。現職ではアフリカ全般の事業及び貿易発展を推進。また起業家として複数のベンチャー企業を設立。前職ではアジスアベバ及びエチオピア商工会議所の代表を務める。ほの他組織開発に関する知見を有しており、国連及び国際金融機関(UNECA, UNDP, WBI, IDRC)にて専門家及びコンサルタントとして複数のプロジェクト企画及び運営に関わる。

SUNY Stony Brook 大学にて修士号取得。アジスアベバ大学教員を歴任、当校のSchool of Information Sciences設立に関与。

#### 岩井睦雄

アフリカPT委員長  
(取締役副会長)  
経済同友会  
(日本たばこ産業)



1983年に東京大学 経済学部を卒業し、同年に日本専売公社(現日本たばこ産業)に入社。経営企画、ビジネスディベロップメントの分野を中心に幅広い役職を歴任。取締役 常務執行役員 企画責任者を経て、スイス ジュネーヴを本拠に120ヶ国以上でJT海外たばこ事業を展開するJT InternationalのDeputy CEOに就任。2016年から2019年まで代表取締役副社長 たばこ事業本部長を務め、2020年より現職。また、2020年4月より、公益社団法人経済同友会 アフリカ開発支援戦略 PT\*の委員長に就任。

\*2021年4月より、アフリカPTに名称変更

**久下 勝也**

資源・エネルギーグループ課長  
独立行政法人国際協力機構  
(JICA)



2002年国際協力事業団(旧JICA)入団。ガーナ事務所、シエラレオネ・フィールドオフィス、アフリカ部、総務部、資源・エネルギーグループ、ケニア事務所での勤務を経て現職。

**安永 裕幸**

所長  
国際連合工業開発機関  
東京投資・技術移転促進事務所



1962年生まれ。2017年より国連工業開発機関(UNIDO)投資・技術促進事務所(ITPO)の東京事務所長。日本の経済産業省で豊富なキャリアを持ち、天然資源や産業科学/技術開発の分野に精通している。2015年から2017年まで、国立研究開発法人産業技術総合研究所(AIST)で、経済産業省のイノベーション政策を担当する理事・企画本部長を務めた後、参事に就任。東京大学大学院工学系研究科資源開発工学専攻修士課程修了、米国コロラド鉱山大学大学院資源経済学部修士課程修了、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。

---

パネルディスカッション 1

**川口 信弘**

専務理事  
一般社団法人GOOD ON ROOFS



1965年佐賀県生まれ  
昭和5年創業の屋根の設計施工会社、株式会社川口スチール工業3代目として社長に就任。

その後、会社を發展させて軽量の太陽光パネルを設計し特殊架台の特許を取得。国内の再生可能エネルギーの普及とアフリカ等の発展途上国の地方の電化を進めている。昨年この活動を飛躍させるために一般社団法人GOOD ON ROOFSを設立し専務理事を務める。またこのビジネスモデルが高く評価され2019「九州未来アワード」2020「Forbes JAPAN SMALL GIANTS AWARD」でグランプリを受賞。佐賀から世界を変えていく企業として脚光を浴びている。

**Mr. Shaninomi Eribo**  
Founder/CEO  
GreenSquareMetre



ナイジェリア出身。GreenSquareMeter 設立者。同社はナイジェリアの不動産企業への建物の緑化・エネルギー削減の達成を企業理念として掲げている。

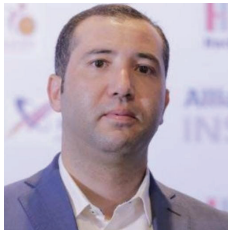
2019年4月に国際金融公社(IFC)のグリーンビルディング指標及び認証システム'EDGE'をナイジェリアの大手不動産会社を含む企業への導入に成功する。2019年より各企業へ同システム導入に関する業務に従事、また建設や運営にかかるエネルギーや建物の緑化を含むグリーンビルディングに関するイベントに多数登壇。Obafemi Awolowo 大学にてエステートマネジメント学位取得。IFC認定 'EDGE' エキスパート。14年に及び不動産開発経験有り。

**水本 穰戸**  
執行役員/CSO  
株式会社チャレナジー



株式会社チャレナジーの最高戦略責任者(CSO)として、営業マーケティング、PR/ブランディング等を統括。同社のフィリピン合併企業の副社長も兼任する。2016年にチャレナジーへ入社する前は、三菱重工業にて複数の海外電力プロジェクトに従事した後、コンサルティング会社に入社し、クライアントと共に途上国での再生可能エネルギープロジェクトの開発に従事。横浜国立大学経済学部卒業(2010)、東京大学公共政策大学院修了(2021)、気候変動及びエネルギー政策を専門的に研究。

**Mr. HAMZA EL BAROUDI**  
Co-Founder  
EMOB (Electric Mobility)



モロッコ出身。IMPERIAL HOLDING社デベロップメントディレクター及びEMOB社共同設立者。2019年に保健・金融大手のアリオン社とのパートナーシップで電動モビリティに特化したEMOB社設立。電動二輪車をモロッコ国内にて推進し広める事を目的としたAISEM(Association of Importers of Electric Scooters in Morocco) の設立者。

**Ms. Alice Ruhweza**  
Africa Region Director  
World Wide Fund for Nature  
(WWF)



世界自然保護基金アフリカ地域局ディレクター。当職においてアフリカ地区を始め、各国の自然保護活動、環境開発及び国際機関とのパートナーシップ構築を率いる。現在は10カ国に渡る600名ほどのスタッフが関わる大規模な自然保護枠組みのデザインをリードし、各国政府及び国際団体との調整に従事。国際農業研究協議グループ(CGIAR)役員、Global Ever-Greening Alliance 役員、及びFuture Earth Water-Food-Energy Nexusワーキンググループ委員。世界経済フォーラム持続可能な養殖魚業ワーキンググループ共同議長。

---

## パネルディスカッション 2

**Mr. Hubert Danso**  
CEO and Chairman  
Africa investor (Ai) Group



"Africa investor (Ai) Group 会長兼CEO。当社はアフリカ全土の機関投資家への各種サービスを提供している。当社を代表して企業、投資家、政府及び開発金融機関向けにアフリカ全土でのESG投資、プライベートエクイティ及びインフラ投資に関するアドバイザリー業務を牽引。主な実績としてNEPAD-AU 5% Agenda Infrastructure Investment Initiative, for Pension and Sovereign Wealth Fundの設立が挙げられる。CFA New York Society Global Asset Owners' Advisory Council及びAfrican Sovereign Wealth & Pension Fund Leaders Forum会長、the African Union Development Agency's (AUDA) Heads of State Continental Business Network (CBN)現議長、及びAfrican Green Infrastructure Investment Bank Advisory Board (AfGIIB)議長。HRH The Prince of Wales Accounting for Sustainability (A4S) Advisory Board役員、UNDP のSDG投資家マップアドバイザー兼 High-Level Project Steering Committee役員。英サセックス大学LLM 国際国際ビジネス法修士号及び同大学LLBビジネス法取得。

**チヴァース 陽子**  
キャピタルマーケット  
サステナブル・ファイナンス部長  
SMBC日興証券



SMBC日興証券サステナブル・ファイナンス部長として、主にサステナブル・ファイナンス構築、環境・ESGリサーチ、その他サステナブル関連のアドバイザー・サービスを担当。

北海道大学で農学の学士号、オーストラリアのクイーンズランド大学で環境管理の修士号、ニューヨーク市立大学でMBAを取得。その後、KPMG Azsa Sustainabilityの環境報告書保証チームで監査役を務める。また、IETA(国際排出権取引協会)に勤務し、排出権取引と排出権取引基準のグローバルな普及に努めた。SMBC(三井住友銀行)入社後は、排出権取引や温室効果ガス排出削減プロジェクトの担当を経て、成長産業クラスター部の環境・エネルギー・天然資源グループの責任者として、水素を含む再生可能・新エネルギープロジェクトなどの低炭素排出プロジェクトを推進した。

**Dr. Christopher Marks**  
欧州グローバルコーポレート営業部  
新興国チーム 次長  
三菱UFJ銀行



MUFG銀行、新興国市場EMEA(ヨーロッパ・中東・アフリカ)担当マネージング・ディレクター。それ以前は、アフリカ開発銀行でチーフリスクオフィサーのシニアアドバイザーおよび民間セクター開発担当副社長代理を務め、国際通貨基金では資本市場/ソブリン債管理の専門家としてコンサルティングを担う。マークスは、BNP Paribas(ロンドン)の債券資本市場部門のグローバルヘッドを務めた後、BNP Paribasのグローバル債券ビジネス委員会のメンバーとして、15年間勤務。

投資銀行家としてのキャリア以前は、発展途上国の公的金融の専門家として活躍。世界銀行、OECD開発センター、Price Waterhouse International Privatization Group、USAIDのコンサルタントなどを歴任。開発金融のキャリアの中で、西アフリカに7年間居住。

ジョンズ・ホプキンスSAIS修士号、パリ政治学院D.E.A.博士号、プリンストン大学Ph.D.

**Mr. Nico Tyabji**  
Head of Strategic Partnerships  
SunFunder



ロンドン、イギリス出身。2016年よりSunFunder社にて現職。当社にてナイロビより主にサブサハラ地域へのクリーンエネルギー市場へ1.5億ドル規模のインパクト投資を実施。ビジネスデベロップメント、ブレンドファイナンス、オフグリッドソーラー案件、またベンチャー企業のアーリーステージ期の投資準備サポートを含む事業を担当。前職はブルームバーグ社New Energy Finance部にてヨーロッパ全般のクリーンエネルギー取引を担当。また同部署にてオフグリッド取引に関わる事業の立ち上げを担当。主な実績として、同社のOff-grid Solar Market Trendsレポートの執筆及びClimatescope Africa事業が挙げられる。コロンビア大学にてInternational Affairs修士号取得、リーズ大学にてInternational Development and Philosophy学士号取得。

**Mr. Thaven Naidoo**  
Regional Coordinator  
Southern Africa, Private  
Financing Advisory Network  
(PFAN)



Private Finance Advisory Network (PFAN) 南部アフリカ リージョナルコーディネーター。当職にてPFANの新規事業案件の発掘、又グリーンビジネス企業、国営企業、国際機関、開発金融機関及び投資機関とのパートナーシップ構築を担当。再生可能エネルギー分野での小規模から大規模の事業開発に精通しており、事業構想、マネジメント、事業戦略、及び研修まで幅広く担当。その他持続可能な開発、廃棄物リサイクル、農業開発、気候変動マネジメントの分野の知見を有する。上記分野でのイノベーション主流化に高い関心を持つ。当団体に於いて気候変動適応化プロジェクトをリード。ステレンボッシュ大学Sustainability Institute 持続可能な開発及び再生可能エネルギー学士号修了。ケープタウン大学農業学学士号修了。

**Mr. Henry Bonsu**

Broadcaster and Media  
Consultant  
Times Radio



アフリカ系イギリス人放送作家、メディア・コンサルタント。Times Radioのプレゼンターを務めるほか、BBC World、Sky News、Al Jazeera、MSNBC、TRT Worldに出演し、国際開発からグローバルゴールまであらゆる分野の分析を行っている。オックスフォードのマグダレン・カレッジで現代言語(独・仏語)を学んだ後、BBC News and Current Affairsに入社し、マンチェスター・イブニング・ニュース等で特集記事を担当。AfDB、UNDP、TICAD、WHO(アフリカ)、UNFCCC、UNHCR、アフリカ連合の会議モデレーターを経験。クライアントである、AfrAsia Bank、Maersk、KPMG、Amaris、Cartier Internationalなどから、多様性と持続可能性に関する会議での理想的なホストとして評価されている。また、ガーナ、ナイジェリア等のアフリカ諸国の機関にメディアコンサルティングを提供。